

自己評価資料 A 令和3年度経営の重点、教育保育の内容に関する評価割合

令和4年3月

学校法人島田中央学園認定こども園島田中央幼稚園長 村上泰造
同 学校関係者評価委員長 麻布文夫

1. こども園の教育目標 「元気にあそぶ子」

重点目標 ・自分で考えのびのび表現できる子・誰とでも遊び思いやりのある子・夢中になり、力いっぱいがんばる子・良い生活習慣を身につける子

2. 自己評価と学校関係者評価 評価基準 A:よく達成している B:達成している C:どちらとも言えない D:達成していない E:全く達成していない

		保護者	職員	自己評価
教育保育目標魅力ある	①教育保育目標「元気にあそぶ子」は達成されている。	100.0	100.0	・①②③④⑤は、教育保育に対する園の取り組みについてダイレクトな評価であるが、いずれも95%を超える数値で高い評価を受け、しかも、昨年度よりも評価は高くなっている。 ・コロナ禍であり、園行事は事縮小傾向の中ではあるが、子どもたちの生活はなるべく変えずに、遊びの充実に努力し、丁寧に子どもたちに寄り添う教育保育を目指してきた園にとって大きな自信となり、素直に嬉しい結果だった。 ・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。
	②教育保育目標や教育方針を共有し、同じ姿勢で教育保育にあたっている。	96.0	100.0	
遊びを中心とした教育保育	③子どもの発達段階や興味関心に応じた教育保育を行っている。	97.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	④自然を活かし、「季節感のある豊かな体験をととした教育保育」を進めている。	100.0	100.0	
	⑤異年齢集団での遊び・活動を取り入れた教育保育を行っている。	95.0	95.0	
個を大切にされた教育保育	⑥一人ひとりに目を配り、声掛けをして個々の子どもの良さを伸ばす教育保育をしている。	92.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑦子どもに平等に接し、「自信」や「意欲」を育てる教育保育を行っている。	93.0	100.0	
社会性の育成	⑧集団生活に必要なきまりや約束、我慢することの大切さを学べるよう工夫している。	95.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑨豊かな人間関係を築いていくための基盤を年齢に応じて育てよう努めている。	94.0	100.0	
環境構成	⑩園生活や遊びの流れが子どもにとって無理のないように配慮している。	96.0	91.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑪子どもの目線に立って、遊具や教材、保育室の環境整備を心がけている。	94.0	95.0	
特別支援教育	⑫特別な支援が必要な子どもに対して保護者や専門機関と連携して支援を進めようとしている。	76.0	84.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
多様な交流	⑬小学校との接続を考え積極的連携を進めている。			
健康安全管理	⑭地域の様々な人と交流の場を設け、人とのふれあいを大切にしている。			・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑮健康管理について気を配っている。	95.5	100.0	
	⑯定期的な安全点検や事故防止対策等、子どもの安全管理に努めている。	88.0	100.0	
食育	⑰定期的に様々な場面を想定した避難訓練を実施し、防災意識を高めている。	97.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑱食に関する指導を年齢に応じて適切に進めている。	96.0	100.0	
保護者との連携	⑲安心安全で子どもが楽しい食事の時間を過ごせるよう配慮している。	98.0	95.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	⑲子どもの声や、保護者から寄せられた相談や意見要望に適切、丁寧に対応している。	91.0	100.0	
その他	⑳行事予定や園・クラスだよりなどで保護者に対して情報を適切に対応している。	96.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。
	㉑1号の園児を対象とした預かり保育の日数や時間、料金、保育内容などは、こども園として適切に設定されている。	76.0	96.0	
	㉒1号と2号の園児が混じり合っている学級での諸活動は双方の園児にとって有意義である。	92.0	100.0	
	㉓3号の園児の生活する保育室の環境は、発達段階に応じ、安全で心地よく過ごせる場として整えられている。	92.0	100.0	・令和3年度初め、職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくい確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦しこれからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、数値はやや下がったが90%は超えていることから、こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 又、⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてきまりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおり遊びの大切さと社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ⑩⑪の生活の流れと環境については職員の数値がやや下がった。具体的には、コロナ禍のせいでもあるが、2・3号児の午後の生活がバタバタとしていて落ち着かない点が指摘された。まず、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねた。 ⑬⑭はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。

自己評価資料 B

令和4年度に向けての具体的改善策

	課題	考察と改善策
<p>教育保育目標 達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解を深めるために話し合いの時間を生み出していく。 ・グランドデザインを指標にする。 ・教育保育の姿勢を繰り返し確認することで、身体にしみこませ、園の強みとしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育目標達成度は、昨年度よりも数値が上がっており、教職員の目指す保育の方向に向けての努力が形として見え、勇気をもらおうと共に、これからも時間をかけて丁寧に話し合いを続けて、共通理解を深めていくようにしたい。 ・園目標「げんきにあそぶ子」に向けての4つの柱 <ul style="list-style-type: none"> 「自分で考え、のびのび表現できる子」 「誰とでも遊び、思いやりのある子」 「夢中になり、力いっぱいがんばる子」 「よい生活習慣が、身についている子」 <p>以上を踏まえた上で、さらに園目標に近づくために今年度は、特にどこを焦点化して保育していくことが大事なのかを若手を中心に話し合い、職員が共通の思いで園目標に向かう姿勢を整えていくようにし、園の指標となる「グランドデザイン」があることで、教育保育が見直しやすく、今後の方向性もはっきりとしてくる。又、保育への姿勢に共通の視点ができ、経験年数の少ない教職員にとっても園の目指す方向がわかりやすく、保育活動が園目標を意識して考えられるようになり、保育の向上につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、全体で方向性を確認し合い共通意識をもってスタートすることが重要である。
<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修のテーマ「子どもが主役になる環境構成」を設定し研修を進めた。 ・研修を重ねていくことで「環境構成」に関する研修成果は上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の園内研修テーマ「環境構成」で、「子どもが主役になる環境構成」を研修する中で意識を高く保育を計画し実践することができた。また、話し合いの中で教師間の様々な意見に触れ、多くの学びにつながった。研修を通じて試行錯誤して考え子どもと過ごしてきたことは、園の強みになっていることは間違いない。 ・研修の結果、保育で様々な環境設定ができ、子どもたちに多くの育ちを感じ研修の成果として確認することができた。 ・文科省から示されている「教育保育要領」では「環境を通した教育保育」が求められており、この点からも来年度も引き続き教育保育の質の向上を求めていきたいと考える。 ・今年度は、室内環境を中心に研修を進めてきたが、来年度は、「園庭における環境」をテーマに研修を進めていく。
<p>こども園の 生活の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1号さくらんぼ利用・2号・3号児の午後の生活がバタバタしているように感じるのはなぜか？ ・長い時間を過ごす保育部の子どもたちにとって過ごしやすい環境と言えるのか？ ・午後の遊びの時間が細切れになっていないか？あそびの保証が出来ているのかを見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、一番改善をしたいと考えた部分である。 ・1号児の帰り時間に2号児の生活を合わせているところがあり、2号児の遊びを途中で切らないで生活できるように時間の流れを細かく検討し、生活のしやすさを考えることとした。 ・乳児が園庭を独占できる時間を作ったことで安心してチャレンジできる遊びに変化が生まれ、2号児にとっても遊び込める時間の確保ができ、それにより落ち着いた午後の時間となって、来年度に向けて明るい兆しが見えてきた。 ・落ち着いた環境が子どもの安全にもつながり、担当教員の見届けに繋がるのではないかと考える。 ・午後の時間、長く預かる子が年々増える中で、親が安心して働けて、子どもを預けることに引け目を感じることはないように、家庭的で安心な環境を用意していきたい。
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育の質を下げずに仕事内容の見直しをしていく。 ・職員の中には子育て中の保育教諭もいれば、介護中の保育教諭もいて、それぞれの経験値を生かし長く働ける環境が職場にあることが、園の財産になると考える。 ・職員にとって、園の中に常に働きやすい、働き続けられる環境がないと教育の質は保てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の状況をできるだけ組み入れたシフトを考え、働きやすい環境をつくる。 ・仕事内容の焦点化を常に考え、仕事の効率化を目指して共有できるパソコンの台数を増やしたことで、いつでも使えるようになり、時間を有効に使える環境が整った。 ・物を探す時間、片付ける時間をより短くするためには、日頃から決まったところに片づけたり、自分の範囲以外のところにまで視野を広げたりして、それぞれがみんなで管理しようと思う気持ちが大事であることを確認した。

<p>アフターコロナ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、計画されていた行事が次々に中止・縮小・内容変更等、いろいろと振り回されてきた。 ・しかし、今まで通りが決して正しかったわけではなく、色々な形があってよいことを学ぶ機会になったと考える。 ・コロナ禍を経験しなければ思いきって変えることができなかった行事が、思い切った変更により踏み込む勇気をもたらえたように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問は、子どもとの距離が近くなる良い機会ととらえてきたが特に2・3号児の親は休みがとりにくく働く母親が増えてきていることを考慮して、今年度から面談に切り替えた。 ・運動会は、保護者の要望に応じて半日で終われるようにプログラムを変更した。結果はとても好評であった。来年度も半日で行い、更に時間短縮を考えて、競技の時間は削らずに子どもの動きに無駄のないように見直していく。 ・小学校・中学校との交流については、来年度もコロナ感染症の対応は続くと思われるが可能な範囲で計画に組み入れていく予定。 ・食育につながるサツマイモ収穫体験・トウモロコシ収穫体験、みかん狩りなどの体験事業をとおして、畑作りをしている人と深くかかわったり、草取りや水かけをとおして、定期的に作物の成長を確認したりするなど、出来る範囲内で一つ一つの体験を大切にしていく。 ・伊久美地区の自然探検・リース作り・野鳥の観察など園長の講話によって子どもたちの世界がひろがっている。新しい自然との関わり方として、来年度も計画する予定。 ・行事を見直す中での留意点は、子どもにとって何を大切にしていけるか、何を育てていくかであるが、保育者の負担軽減も考慮していく必要があると考える。
<p>預かり保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育事業については、働く母親の急増により利用を望む声が増えている。 ・新2号・新3号児等への市の対応も進んでおり、長期休業中の預かり保育への希望が特に高い。 ・これにより、経済的な面での保護者の負担は、軽減しているものの預かりの人数は、増加傾向である。それに対応する職員数には限界があり、職員負担は年々高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の預かり保育は、働くことを証明できる就労証明書と個人面談を義務付けたうえで受付が可能になる就労を目的とした預かり保育とする。 ・ただし、利用者にとって必要最小限の中での預かりを基本とし、働く時間を保証していきながらも親と子のふれあいの時間が家庭で設けられるよう声を掛けることも大切だと考える。 ・職員への負担は年々高くなる一方だが、解決の方法は今後の大きな課題である。
<p>健康 安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1号2号・3号の生活の中で、子どもの見守り体制をさらに安心できる状態を目指すため、パートを含めて人の動きを見直していく必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、職員の配置に微調整をして特に乳児クラスの見守り体制の人数を増やした。また、預かり保育、新2号児・新3号児が増える中での職員体制を見直し、子どもたちの過ごし方の安全性について見直した。ただし、限られた職員数の中でのやりくりにはかなり厳しさがあるのが現状である。 ・乳児クラスの担当職員の入れ替えをなるべくせず子どもにとって、安心できる体制を整えるよう努めた。長時間保育となるので、家庭にいるような安心できる自由さ、時間の穏やかさを考えて計画をたてていく。
<p>食育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により積極的な取り組みはできなかった。しかし、給食に関しては安定した評価が認められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の対応として、自動皮脂消毒機の設置・黙食の指導・対面食事の回避のため食卓用テーブルを増やすなどの対応をした。 ・感染症と常に隣り合わせの生活は続くと思われるが、子どもの食に対する興味を高める効果が見られた空弁の回数を増やしたり、ミールケアに協力を求め、安心安全な中で簡単おやつメニューも増やしたりして、食をより楽しませていく工夫はこれからも継続していく。 ・毎月の給食会議により、調理方法、量、配膳の工夫など細かい改善を続けている。 ・季節に合った食材、メニュー、行事食、二十四節季料理、お箸の使い方教室・食器の置き方など、安心安全な給食に加えて楽しんで学べる給食として、保護者からの評価も高いと感じる。 ・コロナが落ち着けば、食事時間に幅を持たせて、保育時間との兼ね合わせで工夫が出来るようにしていきたいと考える。